

武雄市文化のまちづくりデザイン会議 会議録

| | | |
|---|-------------------------------------|--|
| <p>日 時</p> <p>令和3年12月24日(金) 14:00～16:30</p> | <p>場 所</p> <p>武雄市文化会館 大集会室B</p> | <p>出席</p> <p>□委員(山口夕妃子会長、七田忠昭副会長、黒沢伸顧問(リモート)、井上俊正氏、田中友子氏、松尾陽輔氏、川副義敦氏、中野博之氏、井上祐次氏、光武英樹氏、綿島康浩氏、永松直子氏、山口祐香氏、諸岡智恵氏) □松尾教育長 □市役所 企画政策課 中村係長 □カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 笠井氏、山本氏 □事務局 こども教育部文化課新文化会館整備準備室</p> |
| <p>1. 協議件名</p> | | <p>第6回 武雄市文化のまちづくりデザイン会議 (テーマ: 構想本文とタイトル案について)</p> |

議事録

1.開会(進行: 山北文化課長)

2. 議事 構想本文とタイトル案について

①前回の会議の振り返りについて(事務局より)

○具体的な事業について再度整理を行い提案。

施策1つに対し、1つの事業、そして事業内容ということで全12事業、30事業内容で整理。

当初提示案から修正し、各事業に重点内容を設け、全事業を網羅するかたちで提案する。

②構想本文案について

○構想本文案についての提案(事務局より)

・構想のつくりとしては、第1章 文化のまちづくり構想にあたって から 第6章 取組みの推進で構成。

全30ページ。それぞれの章ごとに概要の説明を行う。

○市民文化の森構想と文化のまちづくり構想との違い(事務局より)

・前回の構想との違いについての共通認識

・市民文化の森構想→文化中核施設の整備のための構想(ハードからソフトへの構想)

・文化のまちづくり構想→文化をキーワードとした新たなまちづくりのための構想

今ある武雄の資源を活用し、成長させ、新しい文化を取り入れたうえで、今一度武雄の文化を見直し、

新しい文化の創造と文化を活かしたまちづくりの創出を目指した構想。

《ご意見1》 30の事業内容について、重点項目を設けることや内容について

・30の事業内容をよくまとめているが、確定していいのか。現実的に手を付けやすいもの、やりやすいところからやっていったほうが良いとは思う。

・前回の資料よりも、意識調査からのそれぞれの課題、課題解決への施策、事業のつながりがわかりやすくなった。拠点施設を展開していくうえで重要な施策というまとめができていたのでは。

・第5章について重要な項目なので整理をして一定の方向性を出して提言すべき。構想の拠点施設の整備についてはもっと明確に説明をすべきではないのか。

- ・前回の文化の森構想の中身が全然実現されていない。現実的にどこまでできるのかが重要になる。
 - ・武雄の欠点として長続きしないところがある。ひとつ取り組んだら長く続けていただきたい。消えていきそうな不安がある。腰をすえて取り組む事業がほしい。
 - ・数値目標は設けないという話があったが、意識調査をみていくと、アンケートの文化活動をしていない割合が非常に多い。この人たちをターゲットとして、何らかのかたちでも、ここの部分だけでも数値目標を設定すべき。覚悟を示すべきでは、10年間たったときにどうなっているのかを掲げるべきは。
 - ・30の事業について、このとおりのタイトルでやるというよりは、この構想が何をいわんとするかはっきりとするための事例なのではと見ている。今後5年後10年後の目標を明確に設定するのは現実として目的、内容がずれていないかというのがある。
- 《ご意見2》 この構想に対して評価すべき点、軸についての確認。特徴となるべき点について
- ・3つの柱の中でも優先順位があるのでは。木に例えているが、根（成長する文化づくり）がしっかりすることが大事なのは。すべていっぺんにではなく、最初に取り組むべきところでは。
 - ・前回の構想と比べて枝葉の「にぎわいづくり」の部分がまちづくり構想としては新しい部分なので。
- 地域資源を活かしたまちづくりについて、芸術を生業に活躍されている市内アーティストがスポットライトを当てられるものを入れたほうが良い。
- ・今後も出てくる課題についての対応を考えやすい柱になっているのでは。
 - ・文化＝多様性の上で成り立っている。文化は与えられたものを楽しむのではなく、一步踏み込んでみんなでつくっていくものというところまで進んだ感じ。具体性を突き詰めずに余裕をもたせるかたちにしてもいいと思う。コンテンツが多すぎて何が目玉かわかりにくい。
 - ・この構想の自分としては売りとしては「文化における市民参画を進めていくのが一番大事な柱」と思う。
 - ・人づくりが大事で、それがにぎわうまちづくりにつながる。事業については時代の変化に合わせて変えていっていいと思う
 - ・前回と今回の構想の違い 文化の「まちづくり」＝「ひとづくり」 簡単には成果がみえるものではない。
- 事業が2～3年で終わることもある。時間がかかるものとして文化をとらえていく必要がある。
- 重点事業内容の中でも長く時間がかかるものもある。重点の中でも最重要を作ってもいいかも。
- ・この構想ができてどうなるのが大事。「高齢者も若者も子どももみんな文化を楽しめる」が重要となる。
 - ・この構想を「文化」をリボーンの作業をして、それを具体化したものと説明する。創る、見るなど

の文化を見直して、受け継いでいくためのもの。その主役は市民であり、市民の関わり方が重要。

・事業内容について具体性をあきらかにしていくべきではないか。誰がリードしていくのかを明記した

ほうが良い。にぎわいについても一過性のものとせず、その後までどうつなげるかが重要。

・今あるものでまちづくりをする視点も大事では。今あるものを生かしていくべき。
・動かすのは「人」なので人づくりは重要。これは進んでいくとみんながかっこいい武雄人になるイメージの構想と考えている。事業内容については数が多いので「事業例」にとどめてもいいと思う。

・日本の文化が変わってきている。SNSで発表の場が今の主流となりつつある。

・構想＝共通理解。市役所だけでなく「市民が主体」なんだというメッセージを書いてほしい。

市民が自分だったらこれにかかわりたい、みたいにわかるようにしてほしい。

・主体となる市民を育てるのが文化を育てるのにつながる。市民が主人公というのを伝えてほしい。

・本物の感動は本物をみないとわからない。こどものころからかっこいい、すごいと思える機会づくりを。

⇒委員の皆様からいただいた意見でもとにさらにブラッシュアップを行う。

次回最終回にて修正案を提案する。

③構想タイトル案について（事務局より）

○これまでの見てきた構想本文や、文化の木をイメージできるタイトルを選定してもらうために5案を提案。用紙に相応しいと考えるタイトルに○をつけていただき、またその理由について記載をお願いする。

○概要版についても2案を今回提示。どちらが見やすいかをあわせて記入を依頼する。

3. 連絡

・今回いただいた意見をふまえて修正したものを次回会議で再度提案し、最終案を承認いただく。

第7回を1月12日（水）14時から。

・市長への答申を1月21日（金）11時 文化会館大楠で予定。次回会議までに当日の出席について

確認をとる。

・パブリックコメントを1月26日ごろから30日間を予定。

| | | | | | | | |
|----------|--|----------|--|----|--|----|--|
| 部長 理事 | | 課長 参事 | | 係長 | | 係員 | |
|----------|--|----------|--|----|--|----|--|